

中間評価シート

中間評価（表紙）

鶴岡市 歴史的風致維持向上計画(H25年11月22日認定) 中間評価(H25年度～R元年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	3
II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援	4
III 歴史的建造物周辺の環境整備	5
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 外国人観光客の増加	6
ii 住民主導による歴史的資源の周知活動の推進	7
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業	8
B 史跡内及び周辺修景整備事業	9
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 旧庄内藩主酒井氏と荘内大祭にみる歴史的風致	10
2 藩校致道館の教学精神にみる歴史的風致	11
3 出羽三山神社と祭礼にみる歴史的風致	12
4 門前町手向地区と出羽三山参りにみる歴史的風致	13
5 松ヶ岡開墾場と地縁団体の活動にみる歴史的風致	14
6 鶴岡天満宮と天神祭にみる歴史的風致	15
7 七日町観音堂と師走の御歳夜にみる歴史的風致	16
8 鶴岡絹産業と絹関連工場にみる歴史的風致	17
■ 庁内体制シート(様式6).....	18
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	19
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	20

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	旧庄内藩主酒井氏と庄内大祭にみる歴史的風致	I, III	
2	藩校致道館の教学精神にみる歴史的風致	I, II	
3	出羽三山神社と祭礼にみる歴史的風致	I, II, III	
4	門前町手向地区と出羽三山参りにみる歴史的風致	I, II, III	
5	松ヶ岡開墾場と地縁団体の活動にみる歴史的風致	I, II, III	
6	鶴岡天満宮と天神祭にみる歴史的風致	I, III	
7	七日町観音堂と師走の御歳夜にみる歴史的風致	I, III	
8	鶴岡絹産業と絹関連工場にみる歴史的風致	II	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進		
II	歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援		
III	歴史的建造物周辺環境の整備		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	外国人観光客の増加		
ii	住民主導による歴史的資源の周知活動の推進		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	史跡内及び周辺修景整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

指定文化財建造物については、保存修理が必要な状態にあっても、所有者の経費負担が大きいことなどにより、保存修理が先延ばしにされており、未指定文化財については、更に所有者の高齢化、後継者不足等の理由から、消失や損傷が進行している。また、市域全体の歴史的建造物に関する総括的な調査や研究が十分に行えていない。

指定文化財については、引き続き補助金等を活用して所有者の負担軽減を図り、適切にその保存・活用を図っていくものとし、未指定文化財についても、調査による状況把握を逐次進め、歴史的風致形成建造物等への指定・支援を検討するなど保存継承に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要文化財旧鶴岡警察署庁舎保存修理事業	半解体修理工事	あり	H25-H29
2	市指定有形文化財大宝館整備事業	部分修理(屋根・内装)工事	あり	H29-H30
3	史跡松ヶ岡開墾場保存修理事業	部分修理(屋根・内装)工事	あり	H10-R4
4	蚕室群活用整備事業	企画展・講演会実施、映像展示・音声ガイドの整備	あり	H27-R4
5	歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業	指定8件、うち補助交付4件	あり	H28-R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- ・重要文化財旧鶴岡警察署庁舎保存修理事業
- ・市指定有形文化財大宝館整備事業
- ・史跡松ヶ岡開墾場保存修理事業

重要文化財等の保存修理工事では、国県の補助事業として庁内での予算を確保し実施した。特に旧鶴岡警察署庁舎では耐震化も併せて実施したことで令和元年の山形県沖地震の折には被害は軽度で済んでいる。

・蚕室群活用整備事業

松ヶ岡開墾場の歴史的建造物の活用方針について検討を重ね、文化庁との協議を経ながら活用整備を進めてきた。具体的には、今まで活用されていなかった冬季間の2番蚕室2階を会場に、H30年2月、識者による日本遺産をテーマとした講演会を開催、定員となる100名が参加した。また、同年3月には、松ヶ岡開墾の契機となる西郷隆盛と庄内藩との交流をテーマとした企画展示を初開催、期間中2千名の来場があり、中には鹿児島や東京など遠方からの来場も見受けられるなど、冬季間における蚕室の公開活用が図られた。また、H31年4月に松ヶ岡開墾場と絹産業の歴史文化を伝える1番蚕室「松ヶ岡開墾記念館」について、従来の史料展示に加え、映像展示、音声ガイドの導入など展示を全面リニューアルし、歴史文化を継承する環境が整備された。

・歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業

歴史的風致形成建造物についての修繕補助制度をH28年から制定し、これまで8件の指定を行い、保存活用の推進を図り、歴史的価値の高い建造物の消失防止に努めた。



旧鶴岡警察署庁舎外景
(修理前 H25)



同上(竣工 H30)



蚕室群活用 企画展の様子

④ 自己評価

補助金を活用した重要文化財の大規模修繕により貴重な歴史財産の保全が行われた。また、歴史的風致形成建造物等の修復助成により、その消失を防ぐとともに、利活用への拡大促進も図られた。

⑤ 今後の対応

今後も継続して、補助金制度を活用した歴史的建造物の保存活用への支援を関係機関と連携して実施していく。また、未指定文化財等についても、活用可能性や修繕の必要性等の状況把握に努め、歴史的風致形成建造物への指定を検討するなど、保存活用に努める。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
方針	Ⅱ 歴史・伝統を反映した人々の活動 に対する支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史の中で人々の手によって大切に培われてきた伝統的な民俗芸能、伝統行事、伝統産業などは、少子高齢化及び核家族化、地域の歴史や伝統文化への関心の希薄化により担い手や後継者不足といった様々な問題を抱えており、地域の活性化につながるような民俗芸能等の継承方法が課題である。

民俗芸能・伝統行事については、その歴史や変遷を把握し記録保存に努めるとともに、保存団体等と連携し補助金等を活用し、後継者の育成や団体同士のネットワーク化など地域の活性化につながる継承を支援する。また、伝統産業は、技術の伝承・後継者育成・伝統技術を活かした商品開発を通じて、経済活動を促進する環境整備を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	門前町歴史まちづくり活動支援事業	出羽三山魅力発信協議会（ガイド育成講座、街歩きツアー、黒板塀塗り等を実施）にこれまで計6回支援	あり	H25-R4
2	松ヶ岡振興支援事業	松ヶ岡地域振興会議（桜まつり、雪灯籠まつり、マルシェ、茶摘み体験等を実施）にこれまで計6回支援	あり	H25-R4
3	シルクタウンプロジェクト推進事業	蚕飼育体験、シルクガールズプロジェクトにこれまで計6回支援	あり	H23-R4
4	民俗芸能保存伝承支援事業	高寺八講保存会、黒川能保存会、山五十川古典芸能保存会等にこれまで計6回支援	あり	H18-R4
5	歴史的風致維持向上計画啓発事業	シンポジウム延べ参加人数564人	あり	H25-R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・民俗芸能保存伝承事業

当事業では伝承団体への継続的な公的補助金交付と民間企業からの補助金を活用した事業を斡旋している。

H30年度より「民俗芸能保存団体情報交換会」を開催し、活動団体の相互交流を通じ課題解決の機会を創出した。また、R1年度は「鶴岡市民俗芸能交流発表会」を開催し、担い手のやりがいを創出するとともに、市民へ広く情報発信を行うことができた。



R1年12月
鶴岡市民俗芸能交流発表会

・シルクタウンプロジェクト推進事業

シルク振興に関わる関係各課が連携し、市内の保育園・幼稚園、小中学校、福祉施設、市民を対象とした「蚕飼育体験」をH21年度から継続して実施し、地域の絹文化の普及が図られている。また、食べるシルク・魅せるシルク・伝えるシルクをテーマに課題研究に取り組む鶴岡中央高校シルクガールズプロジェクトへの支援もH23年度から継続して実施している。さらには、鶴岡工業高校、庄内農業高校でもシルクをテーマとした課題研究の取り組みが始まり、若者による絹の歴史文化を背景とした創造的な活動が展開されている。



シルクノチカラ2019フィナーレ

シルクタウンプロジェクトが10年目を迎えることを記念して、R1年11月に「シルクノチカラ2019」が開催された。地域の2つの高校と高専の高校生等がシルクを使ったファッションショーや課題研究発表を行い、絹産業界関係者、市民など500人の方々が参加し、鶴岡の絹の歴史文化を継承し発展する機運が醸成されつつある。

④ 自己評価

無形民俗文化財保存団体助成等の情報発信を行うことにより、地域の伝統行事・文化への関心を高め、担い手不足解消への機運が高まっている。また、絹産業・文化の継承についても地域の教育機関と連携し、その文化継承の土壌が整いつつある。

⑤ 今後の対応

今後とも地域・学校等と連携し、既存の取組みの継続と拡充を通じて民俗芸能・行事の啓蒙に励み、担い手のやりがい創出と市民周知をさらに進め、文化継承の地合いを作っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
方針	Ⅲ 歴史的建造物周辺の環境整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的建造物の多くは「点」として存在しているため回遊性に乏しく、市民や来訪者が歴史的風致を感じながら散策できる歩行者ネットワークの形成が課題となっている。また、宿坊街では生活環境の変化による建て替えが進んだことで街なみの連続性が欠け、その趣が失われつつある。

歴史的建造物周辺の環境整備については、地域性や各歴史的建造物が有する歴史的な趣に配慮し、統一感のある街並み形成を図るように努めるとともに、安全で快適に周遊できるネットワークの形成を図る整備を行う。また、多様な事業主体との連携による空き地、空き家を活用した休憩スペースの設置など、市民・来訪者にとって散策しやすい環境整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	鶴岡公園内堀周辺道路修景事業	H29基本計画策定、H30実施設計	あり	H29-R3
2	散策・休憩施設整備事業	H27-29 広場整備、H30-案内サイン	あり	H26-R4
3	宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業	H29～街並み修景助成(19件)	あり	H26-R3
4	宿坊街道路・空き地修景整備事業	電柱移設1件	あり	H26-R4
5	史跡内及び周辺修景整備事業	H27-30 広場・駐車場・トイレ整備	あり	H27-R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・散策・休憩施設整備事業

歴史的建造物をつなぐ回遊ルート上の交流・休憩スペースとして、多目的交流広場等を整備し、歩行者ネットワークの形成により回遊性の向上が図られた。

また、関係団体等との意見交換により定めた「鶴岡市サイン計画」に基づき、案内サインが整備されたことにより、来訪者の観光地周遊の促進が図られた。



羽黒手向地区総合案内サイン

・宿坊街町並み保全及び修景整備促進事業

羽黒手向地区の幹線道路に面する建物や土塁、生垣など、宿坊街の佇まいを感じさせる特徴的な建造物について、統一感のある修景整備を行う住民に対して助成を行い、良好な街なみ形成の促進が図られた。

・史跡内及び周辺修景整備事業

認可地縁団体、有識者、市担当課からなる会議を開催し、開墾場全体の修景の調査検討、各種整備計画について意見交換と協議を重ねながら、駐車場、トイレ、広場、場内通路等を整備し、来訪者の利便性が高まるとともに、歴史的景観の一体的な修景整備が図られた。

また、歴史的風致形成建造物に指定されている市指定文化財・松ヶ岡開墾士住宅(新徴屋敷)は、長く非公開施設だったが市郷土資料館から発見された史料に基づく復元工事をH30年から実施し、R1年10月に日本遺産インフォメーション機能をもつ施設として公開活用されている。



松ヶ岡開墾士住宅(新徴屋敷)

④ 自己評価

散策休憩施設の整備や案内サインの設置により、歩行者ネットワークの環境整備が図られ、来訪者の周遊性が一定程度向上されたものの、安全・快適な歩行者空間の整備等は、無電柱化等を通じてより一層の整備が必要である。

⑤ 今後の対応

今後も城下町らしい趣を醸し出し、歴史的景観に配慮した道路修景整備やまちなみ修景整備を継続するとともに、更なる周遊性向上に向けたサイン整備等を行っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
効果	I 外国人観光客の増加		

① 効果の概要

外国人延べ宿泊者数が、H25年と比較してR1年は4.7倍に増加している。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H30-R5
2	鶴岡市中期観光振興戦略プラン	なし	H30
3			

③ 効果発現の経緯と成果

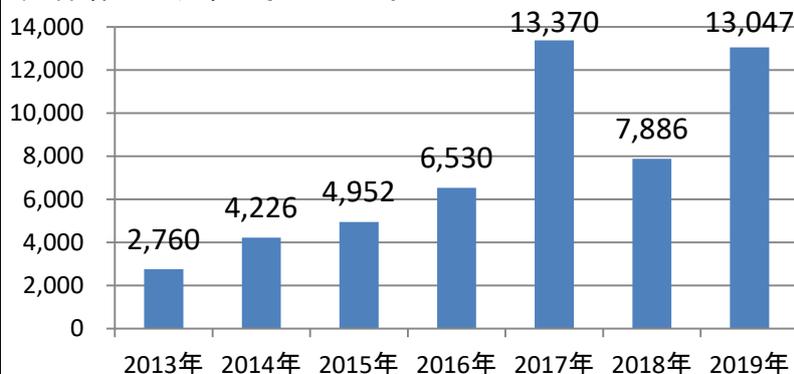
外国人延べ宿泊者数については、計画認可を受けたH25年(2013年)は2,760人であったが、以後毎年増加傾向にあり、R1年(2019年)においては13,047人と4.7倍の増加となっている。

外国人観光客については、文化財及びその周辺地区の修景整備のほか、市観光担当課・観光協会・観光施設等によるトップセールスや多言語のホームページ・観光パンフレットの作成、無料Wi-Fi設置など受け入れ体制の整備が図られてきたものである。

また、案内サインについては、多言語表記のほかに、説明文書などについては外国人にわかりやすいよう翻訳にも特段の配慮を行い設置するなど、外国人観光客の誘客を図った。

さらに、観光ガイド及び観光施設の職員を対象とした「外国人おもてなし研修」を実施し、ホスピタリティの推進を図っている。

これら歴史的風致維持向上事業等により、今後のリピーターの可能性を含め、今般の外国人観光客増加の成果と考えている。



羽黒松ヶ岡地区総合案内サイン

鶴岡市における外国人延べ宿泊者数の推移(人泊) ※観光庁「宿泊旅行調査」より

※2017年は前後の年度と比較して大きな乖離があるが、観光庁でも要因は不明。

一方、2019年は日本遺産認定等の効果により妥当な数値と史料。

④ 自己評価

各種歴史的風致維持向上事業の実施により、また、日本遺産登録による知名度向上等により、歴史的街なみや名所、旧跡、祭り等伝統行事において、外国人観光客が大幅に増加した。



外国人おもてなし研修

⑤ 今後の対応

これまでの外国人観光客の増加基調を継続すべく、引き続き、街なみ修景に対する支援や歴史的建造物及び周辺整備の修景整備を実施し、趣のある良好な歴史的景観の形成を図っていくとともに、案内サイン未整備地区への設置拡充や、松ヶ岡開墾150年、酒井家入部400年といったイベントを通じて、更なる外国人観光客の増進を実現していく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
効果	Ⅱ 住民主導による歴史的資源の周知活動の推進		

① 効果の概要

住民主導の歴史的資源の周知イベントの開催による住民の意識啓発の向上

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H30-R5
2			
3			

③ 効果発現の経緯と成果

市民グループ「歴まちmeeting」による歴史的建造物の公開イベントの実施

H26年に市が主催する歴史まちづくりのワークショップに参加した市民が中心となり、歴史的資源の存在を広く市民に周知し、保存と利活用を考えるイベントとしてこれまでに計5回実施。歴史的資源の利活用を考える機会の創出に繋がっている。



旧鶴岡ホテル
明治期に建築され、H26年廃業
意匠に優れた趣のある木造建築物
中庭に樹齢百年超の藤棚を有す。

開催日	内容	参加人数
H27.5.23	歴まちmeeting from 鶴岡ホテル (閉館した旧鶴岡ホテルの一般公開)	200人
H27.11.3	歴まちリノベーション (閉館した旧鶴岡ホテルの一般公開)	70人
H28.5.7	藤の名宿 鶴岡ホテルで昼食会 (旧鶴岡ホテルで藤の花見、コンサート)	50人
H28.10.9 ～10.10	歴まちday's (歴史的建造物巡り、シンポジウム開催、外国人向け歴まち体験ツアー)	87人
H30.5.12	第4回歴まちmeeting (旧鶴岡ホテルでの昼食会の復活)	35人



建具等の意匠の説明

④ 自己評価

歴史まちづくり事業を進めるうで行ったワークショップにより、地域の歴史的資源を生かしたイベントが住民主導で開催されるようになった。

また、これらイベントを重ねることにより、歴史的資源の活用について意識啓発の向上が図られている。



建造物の歴史説明

⑤ 今後の対応

保存活用が必要な歴史的資源と、担い手となる潜在的プレーヤーを今後同時に掘り起こしていき、継続してイベント開催による市民周知ができるよう広報や運営の協力を行う。そして、歴史的資源の利活用の機運を高めていくとともに、これらムーブメントを起点として、市街地の賑わい創出への発展を図っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H26～R1年
取り組み	A 宿坊街まちなみ保全及び修景整備促進事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

羽黒手向地区の宿坊街まちなみ保全及び修景整備促進事業については、H26年度より修景整備に係る基準作成を進め、H27年度～H28年度には地区住民がまちなみ保全に関するまちづくり協定を策定。H29年度は「門前町手向地区まちなみ景観形成事業」補助金制度を創設し、本制度により、手向地区宿坊街固有の景観に調和した住居・車庫等の建造物や門・塀の外構などの修景整備が行われ、統一感のまちなみが形成され歴史的風致の維持向上につながった。

○修景整備実績件数 19件

H29年度 6件、H30年度 7件、R1年度 6件（R3年度までで計30件整備予定）

○修景整備事例



整備前



整備後

② 自己評価

現代の生活様式に合わせて変化した住居・車庫・外構等の修景整備を行うことで、手向地区宿坊街のもつ歴史ある佇まいやまちなみの連続性が生まれ、歴史あるまちなみの保全と魅力の向上につながった。事業実施にあたり、有識者や地域団体代表者からなる手向まちなみ委員会を開催し、申請案件毎に整備内容について審査・検討を重ね、必要に応じ相談会を開催するなどして、申請者に対して丁寧な指導・助言、意見交換等を行いながら、効果的に整備をすすめることができた。

また、修景整備に併せて、住民が中心となり黒板塀の塗り替え作業、来訪者のための休憩用ベンチづくり、新たな魅力づくり（宿坊街「提灯ロード」）などが行われるなど、景観の維持・保全や歴史的風致を活用したまちづくりに対する住民意識が高まった。

外部有識者名	東北公益文科大学公益学部 温井 亨 教授
外部評価実施日	R2年2月20日

③ 有識者コメント

手向の歴史的風致とは何かを調査研究し、補助事業である景観整備のルールを定め、住民に説明周知を図り、住民・大学研究者・行政からなる手向まちなみ委員会を組織して、審議を繰り返し整備を進めていることは高く評価される。現地を視察すると、住宅や車庫、塀の修景、それに設備機器の遮蔽などで景観の改善は大きな成果を上げている。とくに黒や焦げ茶に塗り替えた色の変更が効果著しい。道案内や宿坊名のサインも工夫されている。とくに成功していると感じたのは自坊小路の板塀に取り付けたプレートの説明板である。これは街路に面して石造やレンガ造の建築が並び、そこに説明板をとりつけるヨーロッパに似ている。それ以外のサインについては、自立したサインを工夫せざるを得ない日本で、より良い結果を求め、なお慎重な工夫が必要と思った。

④ 今後の対応

今後も、桜小路集落に多く残されている石垣や土塁、池ノ仲集落に多い黒板塀の宿坊など、各集落の特色を維持・保全しながら、さらに歴史的風致の向上につながるよう継続して修景整備を推進する。

また、重点地区内のサインを整備する際には、専門家の意見を伺いながら、歴史的なまちなみを阻害せずより効果的なものとなるように検討する。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H27～R4年
取り組み	B 史跡内及び周辺修景整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>明治時代の雰囲気を保ちつつ松ヶ岡開墾場が最盛期を迎えた昭和初期前後の景観への復原を前提とした修景整備を行った。</p> <p>H27～30年度にかけて史跡北東側の北広場、北西側の駐車場（計55台）、駐車場に隣接するトイレ・松ヶ岡開墾士住宅外構を一体的に整備し、来場者の利便性と景観向上に寄与することができた。また駐車場からの来場者の動線となる場内通路については、H30年度に往時の様子の再現を目的とした整備をし、さらにH31年4月からは歩行者専用通路として運用することで、安全な周遊の実現と、蚕室群の歴史的な建物に調和した景観形成を図られた。</p>			
			
		<p>駐車場整備前</p>	<p>駐車場整備後</p>
			
		<p>史跡内通路整備前</p>	<p>史跡内通路整備後</p>
			
		<p>外構整備前</p>	<p>外構整備後</p>
<p>② 自己評価</p> <p>明治初期の趣きを残す松ヶ岡開墾場の歴史的景観を統一的に整備するため、地域のまちづくり会社（松ヶ岡産業㈱）、研究者（東北公益文科大学大学院学外研究員）、有識者（東北公益文科大学特任教授・高谷時彦氏）、市担当課からなる会議を開催し、開墾場全体の景観の調査検討、各種整備企画について意見交換と協議を重ね整備事業を進めた。</p> <p>史跡内の通路整備にあたっては、舗装の仕上げについては、国指定史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画策定委員会での協議、文化庁からの指導を頂きながら、蚕室群との景観・歴史的経緯と調和した仕様の検討を重ね、耐久性・維持管理・通行のしやすさが実現できた。</p> <p>今後はH30年度に策定した「国指定史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画」に基づき史跡価値の維持向上に資する保存・活用整備を進めるものである。</p>			
外部有識者名	東北公益文科大学公益学部 温井 亨 教授		
外部評価実施日	R2年2月20日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>日本遺産にも認定され来訪者の増加が予想される。その備えとして駐車場整備、史跡内の通路整備が必要であり、今回の整備は妥当なものである。歴史的文化的な真正性や、史跡全体の景観、ランドスケープ・デザインの観点からの検討が必要だが、今回は地域の関係者、大学、行政から成る会議を設けて調査、協議を重ね進めていて高く評価できる。通路舗装の仕上げについて文化庁からの指導があったということだが、現地を視察してよい結果となったと感じた。開墾士住宅の復原も、歴まち区域内からなら現地保存を望むところだが、区域外からの移築した建物の復原と聞き妥当と判断した。良く保存したと評価したい。新徴組出身の開墾士が広く散らばり、通勤した者もいたという説明があれば、さらに良い。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>蚕室が並ぶ重点区域の当初計画で予定していたハード整備はほぼ完了した。今後は、来場者に対する重点区域の魅力伝える案内板や解説等の整備や、魅力ある各蚕室の活用も含めた史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画に基づき、歴史的風致の価値向上・価値創出につながる整備を実施していく。合わせて、地域住民とも意見交換を重ねながら、開墾者が切り拓いた農村地域についての歴史文化の継承と保全活用も検討していく。</p>			

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	1 旧庄内藩主酒井氏と荘内大祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 歴史的建造物周辺の環境整備		

① 歴史的風致の概要

旧庄内藩主酒井家は元和8（1622）年に山形の最上家改易後庄内藩13万8千石の領主として入部し、近代まで当地方の領主として治めた。近代になり酒井家を慕う有志が鶴ヶ岡城の跡に荘内神社を建立した。明治10（1877）年にこの荘内神社建立記念祭典の一環として往時を偲ぶ大名行列が再現され、以降、神社の例大祭の中で続けられてきた。S52（1977）年には鶴岡ふるさと祭、H3（1981）年には現在の荘内大祭と名称を変えている。

② 維持向上の経緯と成果

●鶴岡公園内整備事業

今回の整備では、砂利敷きの園路をバリアフリー化するなど施設利用者の負担軽減を図り、安全安心に利用できる公園整備を目指し、さらに、歴史的景観に留意しながら石張舗装や透水性舗装、駐車場整備などを実施した。整備により車いすやベビーカーを使用した利用者など公園内を散策する利用者が増加しており、特に明治39年以降植樹された桜の开花時には、昼夜を問わず桜と歴史の融合を感じ取れる景観を楽しんでいる利用者が数多くみられるなど、城址公園として歴史的風致の維持向上に寄与するものとなった。



荘内神社参道整備

●重要文化財旧鶴岡警察署庁舎保存修理事業

経年劣化によって柱の沈下等老朽化が著しく進み、早急に全面的な保存修理工事が必要な状況だったことから、H25年度よりH30年度まで、半解体修理を行った。保存修理完了後は、致道博物館内の公開施設として一般公開され、警察署として使用されていた当時の様子を紹介するとともに、企画展等ができるスペースを設け、観光誘客促進のコンテンツとなっている。



鶴岡公園公衆トイレ改築



旧鶴岡警察署 内装完成後



旧鶴岡警察署 外観竣工後

③ 自己評価

荘内大祭大名行列コース上の重要文化財等を国県市の補助金を活用することにより維持するための修理を進め歴史的風致の維持に繋がられている。

④ 今後の対応

今後とも公的補助金を活用し重文等指定文化財の保存を図り歴史的維持向上を努める。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	2 藩校致道館の教学精神にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援		

① 歴史的風致の概要

旧致道館は、文化2（1805）年に徂徠学を教学の中心とする藩校として設立され、現在地には文化13年に移設されたものである。当初は聖廟・神庫・御入りの間・講堂・養老堂・会業の間等の諸施設があった。現在は聖廟・講堂・御入りの間と表御門と二つの門が残る。致道館教育の解説は主に講堂で展示されており、今は失われた養老堂や句読所の建物は屋外に平面表示されている。現在、市民有志による致道館文化振興会議の指導の下、旧致道館で小学生を対象とした論語の素読体験等が行われており、致道館を訪れる児童生徒が増えつつある。このように、藩校致道館の教学の精神は人々の心の中に残り、継承されている。

② 維持向上の経緯と成果

● 致道館教学の継承への取組み

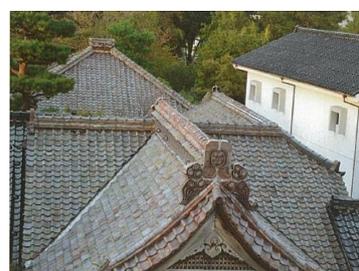
致道館教学の伝統は、（公財）致道博物館及び致道館振興会議で毎年実施している「少年少女古典素読教室」に引き継がれ、市教育委員会も共催となりその活動を支援しており、S43（1968）年より50年以上にわたり今も続いている。また、市教育委員会の取り組みとしては、H24年度より『親子で楽しむ庄内論語』を刊行、市内の全小学校に配布しており、校外学習の一環で致道館についての学習、旧致道館での『庄内論語』の素読学習を実施している。加えて、H30年度から「親子で文化財を巡ろう」見学会を実施し、旧致道館では親子で素読体験学習を行い、致道館教学の裾野を広げている。



見学会の様子 H30年9月

● 歴史的風致形成建造物の修理・保存活用への取組み

明治中期、廃藩置県により廃校となった致道館に代わり、「御寄合」と称する儒教の講義が旧藩主酒井家私邸「御隠殿」で行われていた。H30年度、傷んでいた屋根等の外観修景と内装について歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業により整備し、歴史的収蔵物の展示場として多くの来訪者を迎えている。



御隠殿 屋根瓦外観修景後

● 歴史的風致の市民周知への取組み

H28年度歴史まちづくりシンポジウムを旧致道館内で開催し、100名を超える参加者が市内外から来訪した。文化財の館内で開催することにより、実際に文化財の魅力や歴史的風致に触れることができ、テーマであった歴史的建造物の保存活用についての市民の理解や周知がより進展した。



歴まちシンポジウム H28年10月

③ 自己評価

致道館教学の維持継承については、長年にわたる運営実績があり、幅広い世代に親しみを覚えてもらうことで歴史的風致維持の土台となっている。また、致道博物館内にある御隠殿は、老朽化が目立っていた茅葺屋根や外壁の外観修景を施すことで、魅力ある観光資源としての価値が高められた。

④ 今後の対応

今後も史跡旧致道館の建物群と敷地の維持に努め、学校関係者や観光部局とも協力しつつ歴史的風致維持向上を図る。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H26～R1年
歴史的風致	3 出羽三山神社と祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援 III 歴史的建造物周辺環境の整備		

① 歴史的風致の概要

鶴岡市羽黒町手向地区は、出羽三山（羽黒山・月山・湯殿山）参詣の道者で栄えた門前町である。羽黒山には修験道と結びついた祭礼行事が数多く継承されており、「春山の行」「花まつり」「八朔祭」「松例祭」といった農耕に関する独特の祭礼行事の他、修験者たちが山中奥深くに分け入り、新たに生まれ変わるという「擬死再生」の思想が息づく荒行「秋の峰」が行われている。

このように、修験道が地域と深く結びつき、数多くの信者、参詣者を迎えるとともに、人々の安寧な暮らしを祈りながら固有の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●重要文化財羽黒山正善院黄金堂保存修理並びに防火事業

宿坊街の景観の向上に寄与する施設である羽黒山正善院黄金堂について、H26年度に銅板屋根の全面葺き替えを実施した。また、H26年度に避雷設備パンザマスト、H27年度には放水銃を設置し、防火設備を整備した。



黄金堂銅板屋根葺き替え

●三山詣り里宮拝所御朱印巡り

H29年度、宿坊街の回遊性を高めるための仕掛けを探るため、手向地区自治振興会と手向まちづくり若手グループが中心となり、地区内にある里宮や神社を巡り御朱印をもらうイベントを試験的に開催し、地域内外から約40名が参加した。当イベントによって、「御朱印」や「精進料理」、「里宮」といった素材を組み合わせることで誘客効果があり、地区の歴史・伝統文化を学びながら、まちあるきを楽しむことができることがわかった。



三山詣り里宮拝所御朱印巡り

●景観整備事業

H30年度には、住民ボランティアにより、羽黒地域の木材を使った休憩用のベンチを2台製作した。地元の夏祭り会場及び『秋の峰』で修験者が練り歩く通り沿いに設置したところ、ベンチに座って休憩・見学する人の様子が見られた。



景観整備事業 ベンチ製作

●提灯ロード「光の道」

R1年度、「かつて宿坊の門に提灯を灯し、『秋の峰』の荒行を終えた山伏を出迎えた」という伝統を復興するため、地域住民が40基の提灯を整備した。

提灯の明かりに灯しだされた宿坊街は幻想的で、地域に新たな魅力が一つ加わった。



『秋の峰』を終え提灯ロードを歩く修験者

③ 自己評価

重要文化財の修繕等により、歴史的建造物の保存と風致の維持が図られるとともに、住民による地域資源を活かした活動により、魅力の向上に繋がった。

④ 今後の対応

山形県の主要観光地として、今後も観光客が宿坊街のまちあるきを楽しむための仕掛けづくりに継続して取り組むほか、地域の祭礼行事をはじめとした伝統文化が絶えることのないように学びの機会の提供や人材（後継者）育成の支援に取り組んでいく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H26～R1年
歴史的風致	4 門前町手向地区と出羽三山参りにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援 III 歴史的建造物周辺環境の整備		

① 歴史的風致の概要

鶴岡市羽黒町手向地区では、各地から訪れる道者を宿坊でもてなし、出羽三山に導くといった人々の暮らしが今でも生業として営まれている。また、全国的に数多くある修験道の山の中で、今も山伏が霞場を持ち布教活動を行っているのは手向地区だけである。

宿坊に限らず、一般の家にも冠木門や石垣、黒板塀等が残されているなど、深い山岳信仰と強く結びつきながら固有の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業

H27～28年度には、住民によるまちなみ景観の維持・保全を目的とした「まちなみ協定」が策定され、これを契機にして、H29年度には道路に面する建物や門、生垣といった外構などをまちなみと調和させるための修景整備に対する「鶴岡市門前町手向地区まちなみ景観形成事業補助金」制度を創設。R1年度までに19件整備を実施した。



自坊小路電柱移設

●宿坊街道路・空地修景整備事業

黒い板塀やその塀から突き出た松の大木、黒塗りの長屋門が現存する「自坊小路」について、景観を阻害していた電柱を移設したことにより、趣ある景観の形成が図られた。

●門前町歴史まちづくり活動支援事業

門前町手向地区の10年後の目指すべき将来像を描くため、住民の手によるまちづくりビジョン（未来像）の策定を支援した。この中には、出羽三山信仰が息づくまちづくり、自然との共生、世代を超えた助け合い・つながりのあるまちづくりなどの方針が盛り込まれた。

また、出羽三山の魅力を伝える講演会や手向地区の歴史・文化を学ぶ講座を開催したほか、ガイドブックの製作、SNS等を通じて広く出羽三山や宿坊街の魅力の発信を行った。



出羽三山魅力発信協議会講演会

③ 自己評価

修景整備や無電柱化整備の実施により、出羽三山神社の門前町手向宿坊街としての歴史あるまちなみの保全・形成につながり、歴史的風致の維持向上に寄与した。また、住民の景観や歴史まちづくりに対する意識が高まり、ベンチ製作や提灯整備など自発的活動の実施といった波及効果が生まれている。

④ 今後の対応

引き続き修景整備事業に取り組むとともに、まちづくりビジョンに定める将来像の実現に向け、地区住民が中心となって実施する歴史的なまちなみの保全やにぎわいづくり、魅力発信等の取り組みに対して支援を行い、歴史的風致を活かしたまちづくりを推進する。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	5 松ヶ岡開墾場と地縁団体の活動にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援 III 歴史的建造物周辺環境の整備		

① 歴史的風致の概要

旧庄内藩士が開墾した松ヶ岡開墾場には明治初期に建設された本陣、蚕室等の歴史的建造物が往時の姿で残されている。また、開墾士達の末裔が中心となり、開墾記念式典、萱刈り、山仕舞などの伝統行事・作業が行われるなど、有形・無形の歴史文化資産が継承され、固有の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●歴史的風致の維持向上を目的とする計画策定

歴史的建造物の活用と地域活性化を図る総合的なビジョンとして、地域住民、事業者、行政が議論を重ねH26年3月に「松ヶ岡地域振興ビジョン」を策定した。また、松ヶ岡開墾場の本質的価値と構成要素を明確化し、今後の適切な保存管理と活用整備の推進を目的とし、文化庁等関係機関、史跡・建築・植物分野の専門家、地元有識者から指導助言を頂き、H31年3月に「国指定史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画」を策定した。これらの計画によって保存活用整備方針が明確化されたとともに、広く地域住民、関係者に配布され歴史的風致を維持向上する意識が涵養された。



国指定史跡松ヶ岡開墾場保存・活用計画策定委員会（H31年3月）

●歴史的建造物の保存整備と歴史的景観の修景の推進

歴史的建造物と景観の一体性、歴史的経緯との調和を図りながら駐車場、トイレ、広場、場内通路、歴史的風致形成建造物、サイン等を整備し、地域特有の景観形成と利便性の向上が進んだ。また、H10年度から蚕室等の保存修理工事を継続し、また、新たに避雷針の設置による防災設備工事を実施し、文化財の防災対策が充実した。



修景された歩行者専用の場内通路（H31年4月）

●史跡の価値を高める活用整備の推進

H28年度に、史跡内の一部の土地・建物を鶴岡市が取得し、松ヶ岡振興支援事業による四季のイベント実施、日本遺産魅力発信推進事業による新規企画展や展示リニューアルの実施、体験事業の企画、また、シルクタウンプロジェクト推進事業による蚕室での蚕の展示飼育など、松ヶ岡開墾場の魅力向上とそれに触れる機会が多様に創出され、歴史的風致への理解促進と来場者増加に寄与している。



日本遺産ブランド戦略推進事業によるシルクグランピング（R1年8月）

③ 自己評価

松ヶ岡開墾場の価値を明確化し、保存・活用整備方針として松ヶ岡開墾場保存活用計画が策定され、本歴史的風致を保全し維持向上に大きく寄与する環境が整った。

④ 今後の対応

H28年度には、史跡内の一部の土地・建物を鶴岡市が取得し、H30年度に「国指定史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画」を策定した。今後は、保存と活用整備の指針となる同計画に基づき、文化財としての価値を明らかにし、さらに高める調査研究を進めながら、歴史的建造物の保存と文化的価値に触れる機会を創出する。また、日本遺産事業、地方創生推進交付金など文化振興に関わる財源を活用しながら、今後も継続して地域固有の歴史文化の継承発展に注力する必要がある。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	6 鶴岡天満宮と天神祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 歴史的建造物周辺の環境整備		

① 歴史的風致の概要

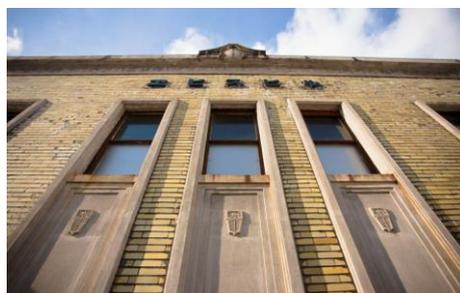
鶴岡天満宮の信仰から始まり、様々に形を変えて、市民の祭りとなった天神祭。鶴岡天満宮等の歴史的建造物を背景に、老若男女の化けものが無言で見物者に酒を振る舞いながら練り歩く風習が継承されている。

祭り当日は、菅原道真公行列、子どもみこし、踊りフェスティバルの行列が本市の辿ってきた歴史を物語っている建造物等が立ち並ぶ市街地の間を練り歩き、いつの時代も見物する人々を魅了している。

② 維持向上の経緯と成果

●歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業

天神祭りにみる歴史的風致としては、本市の辿ってきた歴史を物語っている建造物を背景とし練り歩く風習である。パレードルート上にある三井家蔵座敷、旧小池薬局エビスヤビル、大宝館といった歴史的建造物を歴史的風致形成建造物として指定し、その修復支援を実施することを通じて消失の防止に努め、歴史的な街並みを維持している。



旧小池薬局エビスヤビル

●散策・休憩施設整備事業

その他に、祭りの回遊ルートの散策・休憩施設整備として、多目的交流広場(1,106㎡)を整備している。本広場整備では、老朽化した市役所東庁舎解体後の跡地を利用し、散策・休憩する地域住民や観光客に向けた賑わいとくつろぎ、交流するための広場空間の一部と、駐車スペースや消雪設備、広場と駐車場の間仕切りとして、花壇の設置工事をH28年度に実施した。H29年度は、インターロッキングブロックの設置、花壇への植樹、ベンチや案内板設置を実施し、回遊する上での利便性向上や街並み環境の良化につながった。



大宝館と天神祭りパレード



多目的広場整備

③ 自己評価

天神祭りの練り歩きやパレードのコース上にある数々の歴史的建造物等の修景整備や多目的広場の整備により、本祭りの活性化と賑わいの創出が図られたと同時に歴史的風情の向上が図られた。

④ 今後の対応

今後においても、伝統行事であり本市3大まつりといわれる「天神祭」の歴史的風致の一環として、周辺の通りにある歴史建造物の保全及び鶴岡公園及び周辺道路の修景整備を実施し、趣のある歴史的情緒の構築を図っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	7 七日町観音堂と師走の御歳夜にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 歴史的建造物周辺の環境整備		

① 歴史的風致の概要

城下の町人町であった旧七日町（現在の本町二丁目）の観音堂に祀られている観音様（観世音菩薩尊像）の年末の縁日にあたる12月17日は、「お観音ハンの御歳夜」と呼ばれ、小路に面する境内で縁起物の「だるま市」が開かれ、年末の風物詩として親しまれてきた。裏小路にあるこの境内への道筋には、かつて割烹であった木造3階建の三浦屋や旧鶴岡ホテルなど歴史的建造物が現存しており、旧七日町の歴史的な趣を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

● 歴史的建造物保存対策調査事業

七日町観音堂周辺の歴史的建造物である旧割烹三浦屋や旧鶴岡ホテルの歴史的背景、建造物の意匠などを調査し、保存活用についての、所有者の意向検討を図った。結果、旧割烹三浦屋については、歴史的風致形成建造物の指定を行ったほか、旧鶴岡ホテルについては内覧会等公開イベントを実施し、その保全に努めた。



だるま市

● まち歩きマップの作成

H26年度、城址である鶴岡公園及びその周辺地区の歴史的建造物等への回遊マップを作成しており、この中にも七日町観音堂と周辺の歴史的建造物や小路の表示等、七日町観音堂・だるま市の歴史的風致の周知啓発を行っている。



旧七日町界隈の地図

③ 自己評価

七日町観音堂周辺の歴史的建造物の保存活用を行い、情緒ある小路や歴史背景の説明を表示したまち歩きマップの作成など、歴史的な風情の周知啓発を図ることにより、趣のある良好な歴史的風致の維持向上が図られた。



歴史まち歩きマップ

④ 今後の対応

今後においても、旧七日町周辺の歴史的建造物の喪失防止等、歴史的風致の維持向上を図るため、歴史的風致形成建造物の指定や公開イベントに対する協力等、支援を行っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	8 鶴岡絹産業と絹関連工業にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅱ 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援		

① 歴史的風致の概要

松ヶ岡開墾を端緒とする本市の絹産業の発展は鉄工業、金融業、教育など多方面に影響を与えながら、本市の基幹的産業として近代化をけん引した。現在も、養蚕、製糸、精練、捺染、縫製と絹織に関わる一貫工程と技術が存続する国内唯一の地域である。また 松ヶ岡開墾場の蚕室をはじめ、昭和初期に建てられた精練工場が現存し、日本の近代化を支えた絹産業の原風景を体感することができる。

② 維持向上の経緯と成果

●絹産業の歴史文化を「守る」取り組み

養蚕業から始まる絹織りの一貫工程と技術を守るため、中山間地域の閉校を利用した養蚕環境整備実証事業をH30年から実施し、養蚕指導者、地域住民、高等教育機関が連携しながら養蚕再興に取り組み、H30年は9.6kg、R1年は31.6kgの繭を生産した。また、kibisoの商品開発を支援し、国内トップレベルのテキスタイルデザイナー、国内有名繊維産地と協働した200種類を超える商品が開発された。※kibiso：蚕が最初には吐き出す糸。硬いため活用が難しかったが新しい絹の素材として開発したもの。

●絹産業の歴史文化を「伝える」取り組み

日本遺産「サムライゆかりのシルク」の認定を受けている松ヶ岡開墾場の歴史的建造物を拠点に、H28年に40年ぶりとなる蚕室での養蚕展示、H29年にkibiso等の展示・販売、H30年に歴史展示のリニューアルが実施され、絹産業の歴史文化的価値の普及に取り組んでいる。また、市民による蚕飼育体験を10年間継続するとともに、「シルクノチカラ」をキーワードに、県立高校の学生を中心にシルクをテーマとした創造的な活動が始まり、その動きを伸長するための高校生・地域・生産者・シルク関連企業が連携したコンソーシアムづくりが進められている。

●絹産業の歴史文化を「創造する」取り組み

「kibiso」ブランドを旗手とし、新製品の開発と販売促進に対する支援が行われ、アメリカ、フランス、イタリアで高い評価が得られるなど国内外でのブランドイメージの創出が図れている。将来的には、本市に集積している先端生命科学技術を活かし、シルクに関わるベンチャー企業の創出、既存の絹産業の高度化を支援するなど、持続可能な絹産業の展開を促進する。



閉校校舎を活用し養蚕が復活



蚕飼育体験の繭を活用し、新文化会館の緞帳が制作



人工合成クモ糸とそれを素材としたドレス

③ 自己評価

H27～29の間、市内の養蚕農家が不在となったが、その後、養蚕再興の取り組みが地域・行政挙げて取り組むなど絹産業の一貫工程（養蚕・製糸・製織・精練・捺染）が維持されている。また、kibisoの商品開発と販売支援を通し鶴岡のシルクのブランド化が展開されている。蚕飼育体験や日本遺産事業を通し絹産業の歴史文化の普及が進み、高校生を中心としたシルクの創造的活動が取り組まれるなど、歴史的風致の維持とともに、貴重な地域資源として次の時代へと引き継がれる機運が醸成されつつある。

④ 今後の対応

本市の近代化を支えた鶴岡の絹産業の歴史文化を守り、次に伝えるため、引き続き、市民・地域・企業・教育機関・行政が連携し、本歴史風致を活かしたまちづくりを推進する。

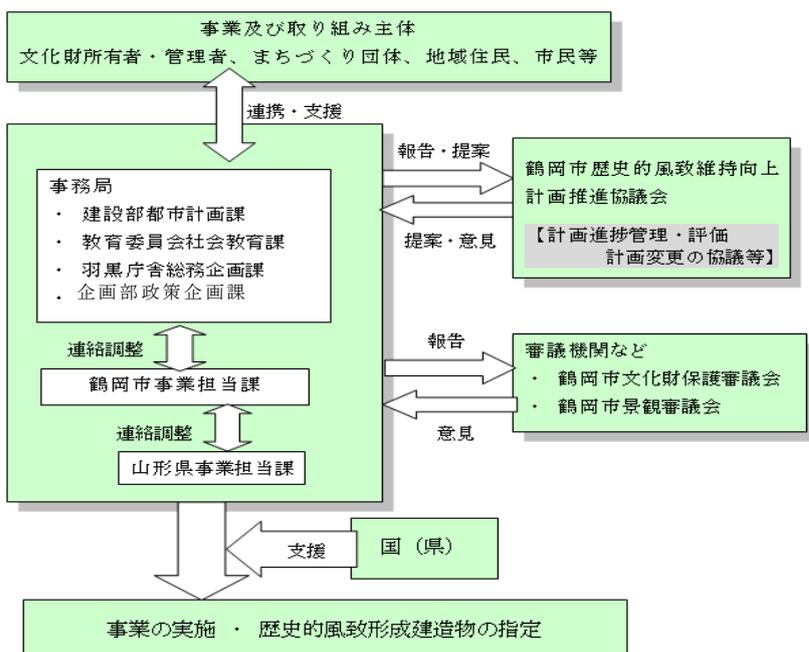
市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

本計画の実施にあたっては、歴史まちづくり法第11条に基づく鶴岡市歴史的風致維持向上計画推進協議会を中心に、計画の進捗管理・評価などの計画推進に係る事項や計画変更の協議などを行っている。

本計画の推進体制の事務局は、建設部都市計画課、教育委員会社会教育課、羽黒庁舎総務企画課及び企画部政策企画課が担い、年に2,3回、定例会を行っている。その他に計画事業と国庫補助金制度との調整など必要に応じて、随時連絡を密に行っている。

また、近年は、多面的な視点から事業推進を図れるよう体制を強化するため、協議内容により観光部門担当者も定例会に加わることで、庁内での情報共有や意見集約の適正化が図られつつある。



第7回推進協議会

② 庁内の意見・評価

（羽黒庁舎）：

歴まち計画には記載されていないが、松ヶ岡地区内では、民間事業者によるワイナリーの整備が進んでおり、今後、新たな観光資源として、松ヶ岡開墾場と連携し、相互の来訪者の増加等相乗効果を図るため、歴まち計画への位置づけやサイン誘導等整備を検討してはどうか。

（企画部局）：

歴まち計画における3重点地区の各事業整備については、それぞれとてもよく整備が行われている。今後は、各施設だけでなく、3地区の観光連携による相乗効果等を図ってはどうか。例えば、現在計画されている、松ヶ岡開墾場150年イベントについて、鶴岡公園周辺、手向地区も連携した取組みを企画し、相乗効果を得てはどうか。

（建設部局）：

本計画における歴史的風致形成建造物の指定は8件で、修復補助は4件となっているが、本市における歴史的に価値のある建造物の潜在的資源について、調査・発掘を行い、これらの指定により広くアピールを行うことで、累積し、回遊へと発展していくものと思われる。

また、保全された歴史的建造物についても、今一度、観光資源としての活用促進について積極的に取り組む必要があると思われる。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
① 住民意見			
●鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【鶴岡市人口ビジョン】策定時の住民意識アンケート調査（H27年6月）結果から			
H26年度内に他市町村から鶴岡市に転入した方に、本市に定住を希望する理由について調査した結果（複数回答、回答180/発送599）			
①自然環境や景観を気に入っている。 68.4%			
②家族・親類・友人が近くにいる。 44.0%			
③地域行事や伝統芸能など歴史・文化環境が豊かである。 30.6%			
これらの結果から、景観や歴史文化の環境が非常に重要であることが伺われる。			
●歴史的建造物まち歩きイベントの参加者アンケート結果から （H28年10月実施、鶴岡公園周辺の歴史建造物巡り 4Kmコース 回答者83名 回収率95%）			
<ul style="list-style-type: none"> ・当時としては最先端の建造物が多くびっくりした。食、建築、歴史、いろんな鶴岡を満喫できた。 ・維持していくことの大変さを感じた。 ・鶴岡へ来て約1年。鶴岡の魅力に打ちのめされた。関東の仲間へ伝えたい。 ・鶴岡の建築物とそれが持つ魅力や文化背景に興味と理解を深めたいと思った。 ・鶴岡の歴史と建造物廻りは私が生きてきた歴史感そのもの。感動しました。 ・普段、何となく通り過ぎていた建物の中に入り、鶴岡の歴史の奥深さの一端に触れた。 ・鶴岡には素晴らしい建造物がありながら街並がそろっていないのが残念。 			
② 協議会におけるコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・緻密な計画に従って実施していることを評価する。 ・3ページ（歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進）について、状況把握に努め、所有者に歴史的建造物であることの認識と、保全活用する意識を高めてもらうことも必要と思う。 ・4ページ（歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援）について、「ただちや豆といえば鶴岡」のように、シルク振興についても、「シルクといえば鶴岡」と連想できる名前があったらいいと思う。 ・建造物（伝統的建造物・修景整備した建造物等）についてのサインが必要であると、あらためて感じた。 ・サインは実際にあるものの、バラバラなイメージを持たれてしまっている地区もあると思う。また、サインは独立したものより、その建造物の壁面に設置する方がベターと考える。 ・現在では消滅している建造物等の場合でも、サインを設置し、後世に伝える説明などがあってもよいのではないか。 ・「歴まちmeeting」による歴史的建造物の公開イベントは、良い企画だと思う。例えば、建造物と花（菅家庭園のしだれ桜、井岡寺のしだれ桜）を見る企画など、様々工夫ができそうだと考える。 			

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R1年
<p>① 全体の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、現計画の基本方針に基づき、国庫補助事業を活用しながら、継続的に事業・施策を展開していくことが課題である。 ・重点区域外においても歴史的な価値のある建造物が各所に点在しており、これらの保存活用による歴史的風致の維持向上も必要であることから、重点区域の設定について見直しを検討する余地がある。 ・民間所有の歴史的建造物の保存修繕においては、助成制度の活用により負担軽減が図られているが、経年劣化が激しく、その構造や意匠の特殊性から、維持管理負担が大きく、存続が困難になっている。 ・伝統行事や伝統技術等については、少子高齢化・人口減少や意識の多様化による歴史文化への関心の希薄化等から担い手不足が懸念され、その継承が困難になる。 ・歴史的建造物の保存及びその周辺整備として道路修景や公園・広場整備の実施などにより、良好な歴史的まちなみ形成が図られていることから、今後、より質の高い景観形成への配慮等を考えていかねばならない。 			
<p>② 今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現計画の進捗状況の適正な把握のもと、完了していない事業については鋭意取り取り組むとともに、第二期計画の策定を検討し、市民や企業による協力や連携のもと、歴史まちづくりを継続的に取り組んでいく。 ・現計画の重点区域以外の歴史建造物の消失や歴史的な風致を醸し出す町並み修景の促進を図るため、必要に応じて、現計画の重点区域の追加・拡大について検討していく。 ・歴史的建造物について、公助による建造物の保存には限界があることから、今後、リノベーションによる建造物の活用促進の取り組みが重要になってくるものと思われる。 リノベーションにあたっては、建築基準法上の制約にも留意する必要があることから、今後、歴史まちづくりシンポジウムなどを活用し、専門家による講演、先進地事例紹介などで、周知、啓発を図っていく必要がある。 ・伝統行事・伝統技術の継続的な継承を図るため、情報交流や発表の場などの機械の創出を継続し、担い手のやりがいや伝統行事の歴史的風致上の価値等について、広く市民の認識を深めていく。また、教育機関との連携も密にし、未来を担う子どもたちへの伝統行事の周知や参加を積極的に促し、伝統行事・伝統技術の継続的継承を図っていく。 ・本市では市全域を景観計画区域として「鶴岡市景観計画」を策定し良好な景観形成の推進に取り組んでいるが、重点地区内における貴重な歴史的・文化的資源を保全・活用した景観形成を図るため、景観計画の地区指定等により、屋外広告物の基準の見直し強化等を検討する。 			